

2020年7月30日

小林製薬株式会社 2020年12月期第2四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q：広告宣伝費は年間でどれくらい下げる見通しか？

A：前年より39億円※下げる見通し。

ただし、在宅勤務者が増えたことなどからテレビの視聴率が上がっており、テレビ広告の効率は上がっている。

※説明会では45億円と回答しておりましたが、正しくは39億円となります。

Q：下期の国内事業の見通しは、インバウンド需要の影響を除くと増収ということか？

A：その通り。

Q：ウィズコロナに関連する新製品を下期に10品目発売するということが、通常の秋の新製品に加えて発売ということか？

A：その通り。

通常の秋新製品が14品目なので、合わせて24品目を下期に発売予定。

Q：ウィズコロナに関連する新製品について、これは今までのハードルを上げて慎重に取り組むという新製品開発方針をスピード重視に変更したということか？

A：方針は変えていない。

売上対策のためにウィズコロナに関連する新製品アイデアを募ったところ、良いアイデアがかなり多く出てきて、従業員のものすごいパワーを感じた。その中で今年すぐ発売できるものを選定したところ、10品目となった。

Q：M&Aは中国・米国・日本で狙っているということだが、こういったカテゴリーを狙っているのか？また、優先的に狙っている地域はあるのか？

A：国内外ともヘルスケア、特にOTC医薬品メーカーを狙っている。M&Aは相手方のあることなので狙っている地域で必ずしもうまくいくとは限らない。幅広く探索して良い案件を狙っていきたい。

Q：今回下方修正した通期見通しは堅い数字と見ていいのか？

A：現在の状況が続けば達成は可能だと見ている。ただし、今後緊急事態宣言が再度発令され、経済活動が一段と低迷するような事態になれば、今回修正した数字からさらに下がるリスクはある。

Q：今年新型コロナウイルスの影響で流通向けの新製品内覧会が開催されなかったが、それによる新製品の導入への影響はあるのか？

A：新製品紹介動画を作成して流通の方にお見せするなどの工夫をしている。当社の営業力であれば、店頭への配荷は問題なく出来ると考えている。

Q：インバウンドが無くなった代わりに、日本で発売している製品をもっとスピーディに中国本土へ展開することはできないのか？

A：これまでインバウンドで買っていたのはごく一部の中国人の方で、当社の製品はまだ中国本土では認知度が低い。一品ずつ認知度を高めていく広告活動が必要だと考えている。そのため、たくさんの品目を上市して広告投資を分散させるより、売れているものから丁寧に育成していくことが大事だと考えている。

Q：第2四半期の中国の店頭売上が大きく減収となっているがその要因は何か？

A：熱さまシートの販売規制による苦戦が大きな要因。

Q：下期の国際事業が前年並で着地できると考える根拠は何か？

A：中国は引き続き熱さまシートが苦戦するが、他の日用品でカバーして前年並を予定している。米国のカイロはプラスでみている。昨年暖冬だった反動に加え、コロナ禍でのアウトドア人気の高まりによる使用シーンの増加がその理由。また熱さまシートも同様にコロナ禍での需要が高まっており、流通からの注文も増加している。これらでカバーして前年並を想定している。

Q：中国の熱さまシートは上期が前年差▲5億円だったが、下期はどう見ているのか？

A：下期は▲3億円で見ている。いつ売上が回復するかは販売規制がいつ解除されるか次第。

Q：世界的に平均気温が上がっているのに、今後カイロを伸ばしていくのは難しいのではないか？

A：温暖化の影響を考えるとネガティブだが、まだカイロを使ったことがない人は世界にたくさんいるため、市場拡大は出来ると考えている。また、関節の痛みや冷え性の方に使っていただくカイロなど、ヘルスケア領域でのカイロを今後伸ばしていきたい。

Q：国内の除菌衛生関連品の需要増と外出自粛による需要減はそれぞれ年間どのくらい見ているのか？

A：除菌衛生関連品の需要増は+34億円、外出自粛による需要減は▲8億円と想定している。

Q：通販事業が今後プラスに転じるのはいつ頃と見たら良いのか？

A：他社にないユニークな新製品が発売出来ていないのが通販事業の苦戦の要因。現在開発中の品目には少しユニークなものも出てきているので、中期経営計画の期間中（2022年まで）には回復させたい。

Q：国内事業の下期見通しはインバウンド需要を除くと約50億円の増収となるが、具体的にどういった施策を考えているのか？

A：除菌衛生関連品の需要増で+10億円、通常の新製品の発売で+12億円、ウィズコロナ関連の新製品で+5億円、カイロが昨年暖冬の反動増で+10億円、既存品のキャンペーン等で+17億円など。

Q：国内下期のカイロ+10億円は暖冬によるリスクを織り込んだ数字か？

A：平年並の気温を想定している。暖冬になれば約5億円の減収リスクがある。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。